

第3回 大規模災害セミナー

～ 大規模地震・津波災害講座 ～

プログラム

- 9:30～9:50 受付
- 9:50～9:55 開会挨拶
- 9:55～10:00 セミナー概要等説明（事務局）
- 10:00～11:00 第1講義（講義 50分、質疑 10分）
「地震・津波の発生のおくみと予測」 佐竹健治先生
（東京大学地震研究所地震予知情報センター／センター長・教授）
- 11:10～12:10 第2講義（講義 50分、質疑 10分）
「地球温暖化による計画高潮の見直し」 河田恵昭先生
（CDR 理事長，京都大学防災研究所巨大災害研究センター／センター長・教授）
- 12:10～13:10 昼食
- 13:10～14:10 第3講義（講義 50分、質疑 10分）
「地震と社会：災害軽減を凶るには？」 福和伸夫先生
（名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学系
環境・安全マネジメント講座／教授）
- 14:20～15:20 第4講義（講義 50分、質疑 10分）
「津波に対する住民の災害理解特性を踏まえた効果的な防災教育のあり方」
片田敏孝先生
（群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻／教授）
- 15:30～16:00 認定試験
- 16:00～16:30 採点・認定証授与
- 16:30 閉会挨拶・閉会

◆開催日時：2008年6月25日（水） 9:30～17:00

◆開催会場：関電会館（大阪市北区中之島3-6-16（関電ビルディング4階））
（TEL）06-6441-6800

◆募集定員：140名（先着順）

◆テキスト代（税込み）：一般 ¥6,000円，CDR会員 ¥4,000円，学生 ¥3,000円

◆主催：特定非営利法人 大規模災害対策研究機構（CDR）

◆主催者事務局：特定非営利法人 大規模災害対策研究機構（CDR）事務局

〒531-0074 大阪市北区本庄東2-3-20（株）ニュージェック気付

Tel：06-6374-4420 Fax：06-6374-5065

E-mail：tsunami@newjec.co.jp HP：<http://www.e-tsunami.com/>

講師紹介

(順不同・敬称略)



河田 恵昭

(CDR 理事長、京都大学防災研究所巨大災害研究センター／センター長・教授)

【講義要旨】

「地球温暖化による計画高潮の見直し」

2005年のハリケーン・カトリーナ災害を契機として、わが国の高潮対策の見直しが政府主導で行われています。地球シミュレーターは地球温暖化によって台風強度が増すと予測しており、事実、最強のカテゴリー5に属するハリケーンが増えています。そこで、現在進行中の東京湾と大阪湾における計画高潮の見直し作業とその浸水特性を紹介し、とくに大阪湾では南海地震や上町断層地震によって地震や津波被害と連動する複合災害の発生も懸念されており、この点についても言及します。



佐竹 健治

(東京大学地震研究所地震予知情報センター／センター長・教授)

【講義要旨】

「地震・津波の発生のしくみと予測」

東海地震が明日起きてもおかしくないと言われ続けて30年以上が経過する一方、50年以内に次の南海地震が発生する確率は80~90%とされています。過去に発生した大地震の調査・研究はどのように行われているのか、大地震の発生確率はどのように計算され、どの程度信頼できるのか、大地震後に津波はどのようにして発生し被害をもたらすのか、地震や津波の警報はどのようにして発出されるのか、などについてお話しします。



福和 伸夫

(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学系

環境・安全マネジメント講座／教授)

【講義要旨】

「地震と社会:災害軽減を図るには？」

過去の地震災害と我が国の歴史の変化、過去の社会と現代社会の態様を対比したうえで、現代社会の地震災害像を浮かび上がらせ、自分自身の災害対策の現状を正視するとともに、今、必要とされている個人・組織・社会の減災対策のあり方について考えます。



片田 敏孝

(群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻／教授)

【講義要旨】

「津波に対する住民の災害理解特性を踏まえた効果的な防災教育のあり方」

近年の低調にとどまる津波避難の実態から、災害に対峙した人の心理と災害情報の理解特性を学びます。また、シミュレーションなどの社会技術を用いた防災教育や学校教育を介した防災教育の事例を紹介し、地域の災害文化形成に向けた、災害をやり過ごす知恵を育む効果的な災害リスク・コミュニケーションのあり方を考えます。